

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について
～滝川市立小学校、中学校の学力の状況等～

滝川市教育委員会
(担当：教育総務課)

1 調査の概要

- (1) 実施期日 令和3年5月27日(木)
- (2) 調査の対象学年
・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- (3) 調査の内容
①教科に関する調査(国語、算数・数学)
小学校(国語：14問、算数：16問)
中学校(国語：14問、数学：16問)
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- (4) 参加状況(悉皆調査)
小学校6校 中学校4校
- (5) 参加児童生徒数(下表)

	小学校第6学年					中学校第3学年			
	学校	対象児童数	受験者数	未受験数		学校	対象生徒数	受験者数	未受験数
	滝川第一小	41	41	0		江陵中	115	108	7
	滝川第二小	50	48	2		明苑中	136	131	5
	滝川第三小	59	54	5		開西中	54	53	1
	西小	47	47	0		江部乙中	10	9	1
	江部乙小	15	15	0					
	東小	77	76	1					
	計	289	281	8		計	315	301	14
	参加率	97.2%				参加率	95.6%		

2 教科に関する調査の結果

全国・全道の平均正答率に対し、本市の児童生徒の平均正答率を
上回っている(5%以上)、やや上回っている(3%以上5%未満)、
同程度(上位)(1%以上3%未満)、同程度(±1%未満)、同程度(下位)(-3%より上-1%以下)
やや下回っている(-5%より上-3%以下)、下回っている(-5%以下) で示した。

(1) 小学校

①【国語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(64.7%)と同程度(下位)、全道の平均正答率(63%)と同程度の正答率である。

②【算数】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(70.2%)をやや下回り、全道の平均正答率(67%)と同程度の正答率である。

(2) 中学校

①【国語】

滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(64.6%)、全道の平均正答率(65%)をやや下回る正答率である。

②【数学】

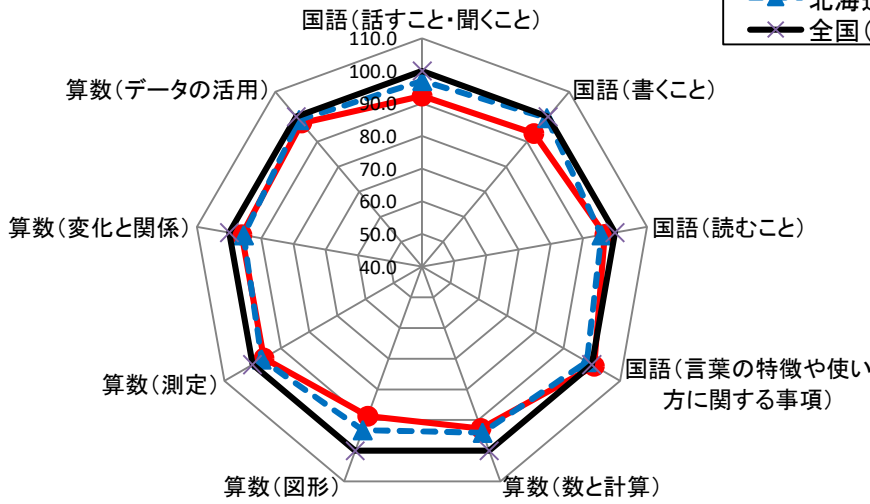
滝川市における平均正答率は、全国の平均正答率(57.2%)、全道の平均正答率(56%)と同程度(下位)の正答率である。

※文部科学省の発表に基づき、全国の平均正答率は小数第1位まで、全道の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示す。

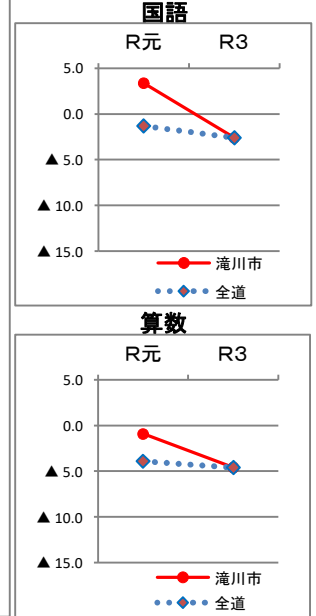
3 滝川市立小学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：6校、児童数：281名）

【教科全体の状況】

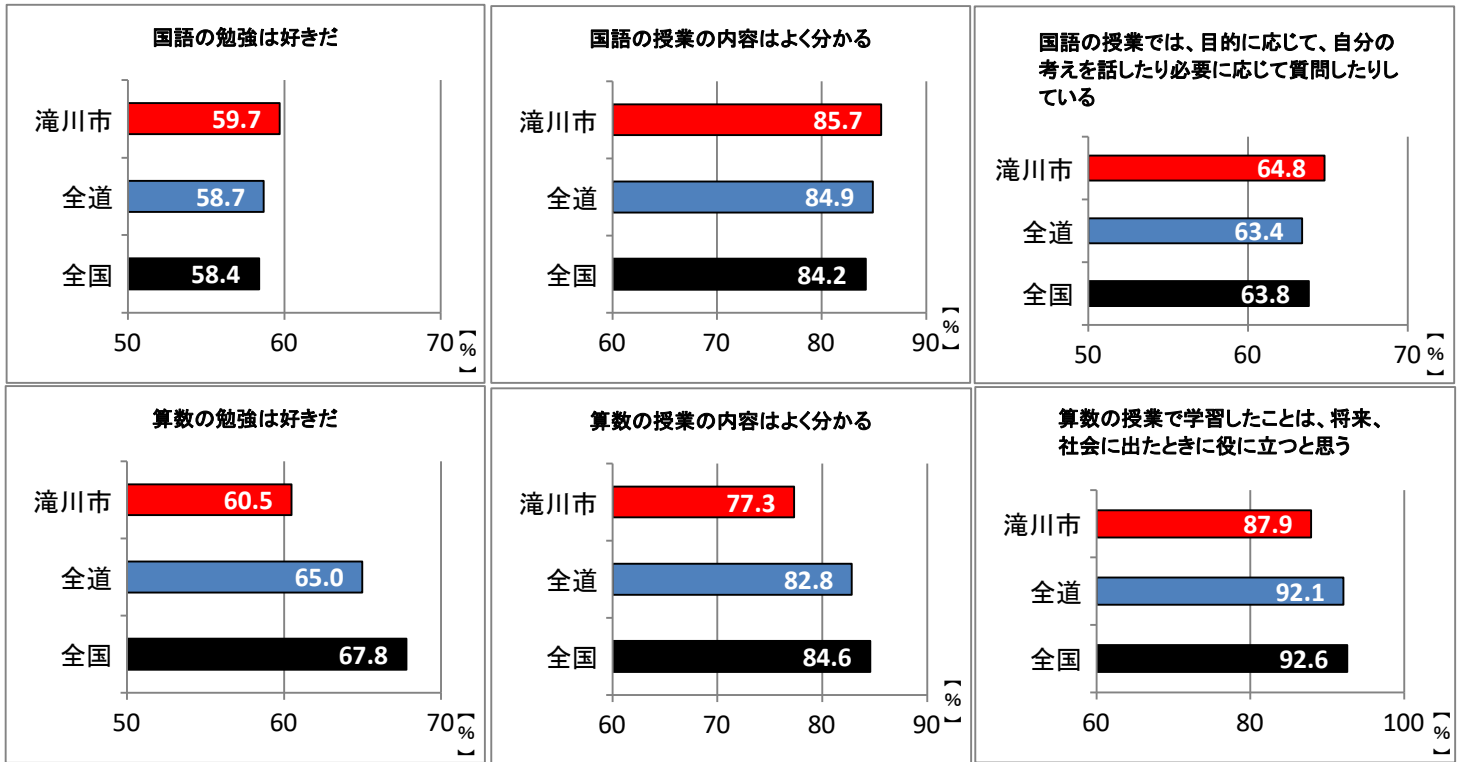
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）



※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したもの。令和2年度の調査は中止。



【児童質問紙調査】



【分析】

教科	国語の平均正答率は全国・全道の平均正答率と同程度となった。一方、算数の平均正答率は、全国の平均正答率をやや下回り、全道の平均正答率と同程度となった。領域別に見ると、国語の「言葉の特徴や使い方に 関する事項」は全国・全道の平均正答率を上回り、「読むこと」は、全道の平均正答率を上回った。また、算数の「変化と関係」は、全道の平均正答率を上回った。しかし、国語の「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」、算数の「図形」は全国・全道平均正答率を下回っており、定着が不十分であることがわかる。	学校は、児童の姿や地域の現状等に基づき、教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、学力向上プランの見直しを図りながら、組織的に授業改善に取り組んできた。引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、児童が自らの学びの変容を見取り、自らの学びの高まりを自覚できるようにすることが大切である。
児童質問紙	「国語の勉強が好きだ」と回答した割合及び「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した割合は、全国・全道の割合より高くなっているが、算数の回答においては、どちらも全国・全道の割合より低くなっている。国語の授業において、「目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」と回答した割合が高いことから、自分の考えを他者へ伝えるという素地はできていると思われる。よって、算数の授業においては、自己判断・自己決定する場面や自分の考えや思いを伝えられる場面を設定することにより、学習意欲の向上、そして、そこから派生する学力の伸びが期待できる。さらに、学習の有用性を感じられる場面を意図的に設定することが大切である。	
学校質問紙	すべての学校において「前年度までに、学習規律を維持した」「前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけて評価する取組を行った」「前年度までに授業の中で目標を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」と回答した。	

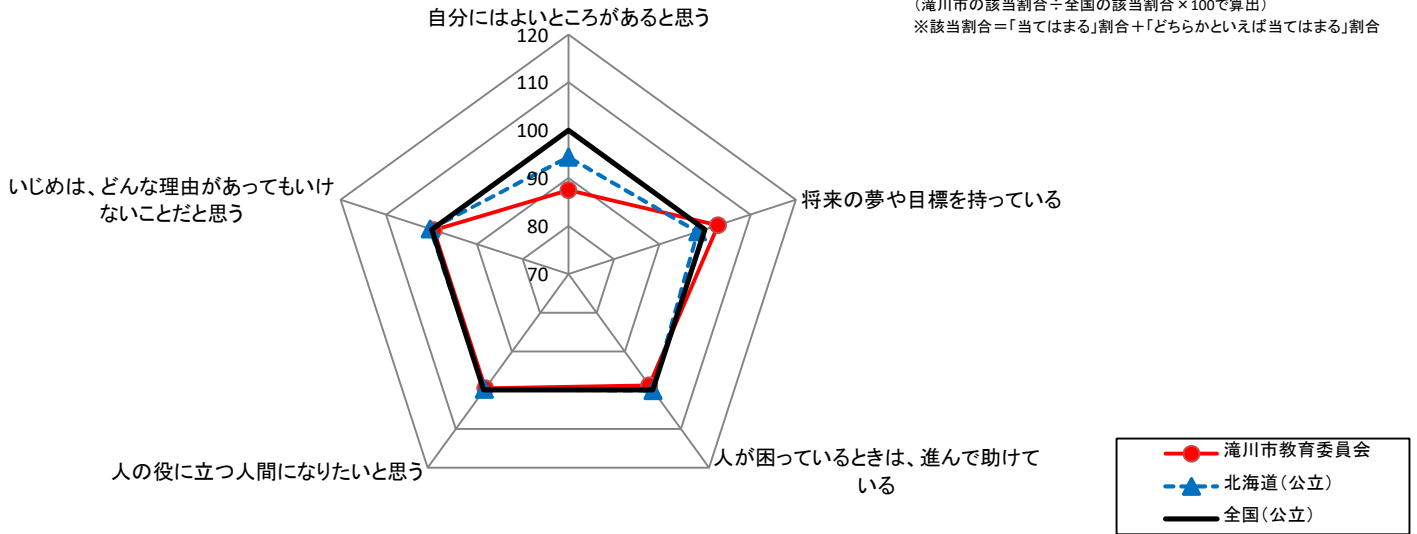
【滝川市の学力向上策】

- 個に応じた学びの支援のため、「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
- チーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、一人一人の児童が抱える学習のつまずきの解消や発展的な学習の充実に取り組んでいる。
- 各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。
※校区内の小学校と連携して作成した手引を用いている学校もある。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習に取り組ませるとともに、児童の家庭学習への意欲化・定着化を図っている。
- 授業改善推進チーム活用事業を活用した学校間の取組を市内のすべての小学校に発信し、積極的な授業改善を推進している。

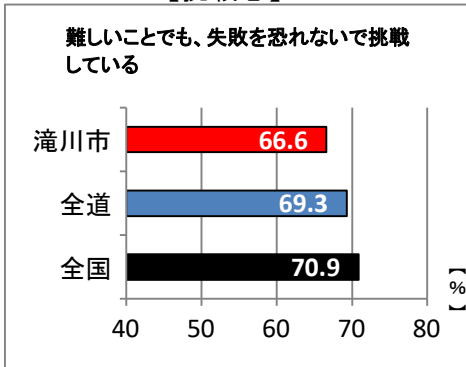
4 滝川市立小学校の学習状況及び改善策（学校数：6校、児童数：281名）

【自尊心及び規範意識等全体の状況】

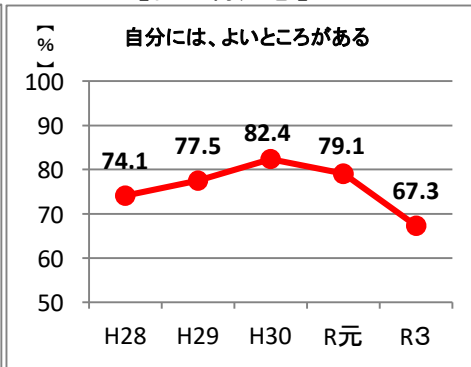
各児童質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
 （滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出）
 ※該当割合＝「当てはまる」割合＋「どちらかといえば当てはまる」割合



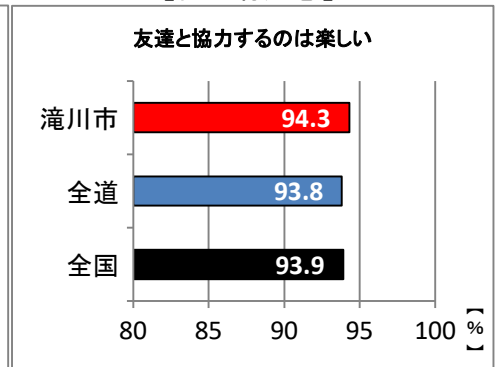
【挑戦心】



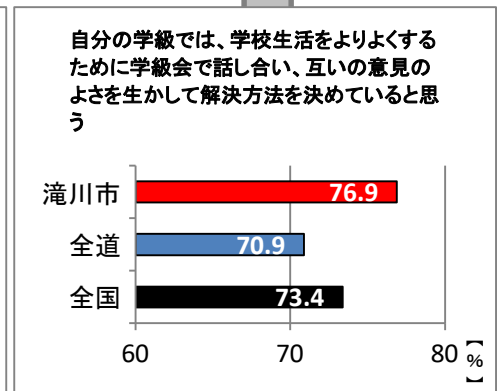
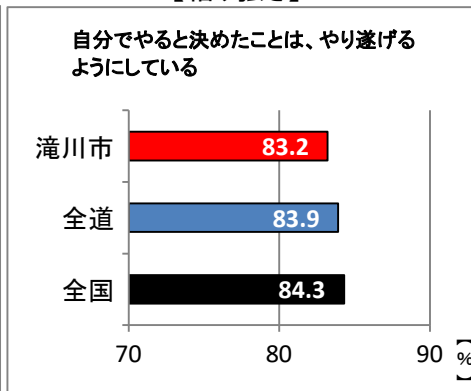
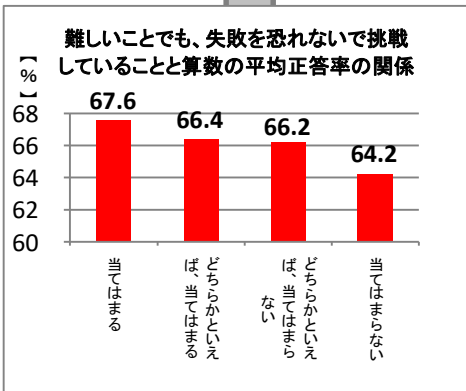
【自己肯定感】



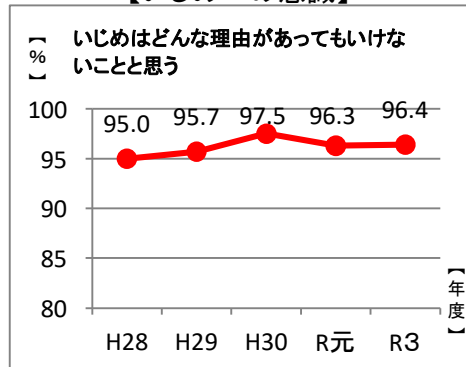
【自己有用感】



【粘り強さ】



【いじめへの意識】



【分析】

○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、特別活動を要としたキャリア教育の充実がその要因の一つと考える。今後も、小中9年間を見越したキャリア教育の推進が望まれる。
 ○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、ここ数年、高い割合を維持している。滝川市は、その割合が100%となるよう目標を掲げて施策を推進している中で、各学校において児童・家庭への啓発活動及び児童による主体的な活動が行われていることが要因と考える。
 ○「友達と協力するのは楽しい」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、学級会等において、友達の意見を尊重し、解決方法を決めていたことがその要因と考える。
 ○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した割合は、全国・全道の割合を下回った。難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していることと算数の平均正答率については、相関関係が見られている。

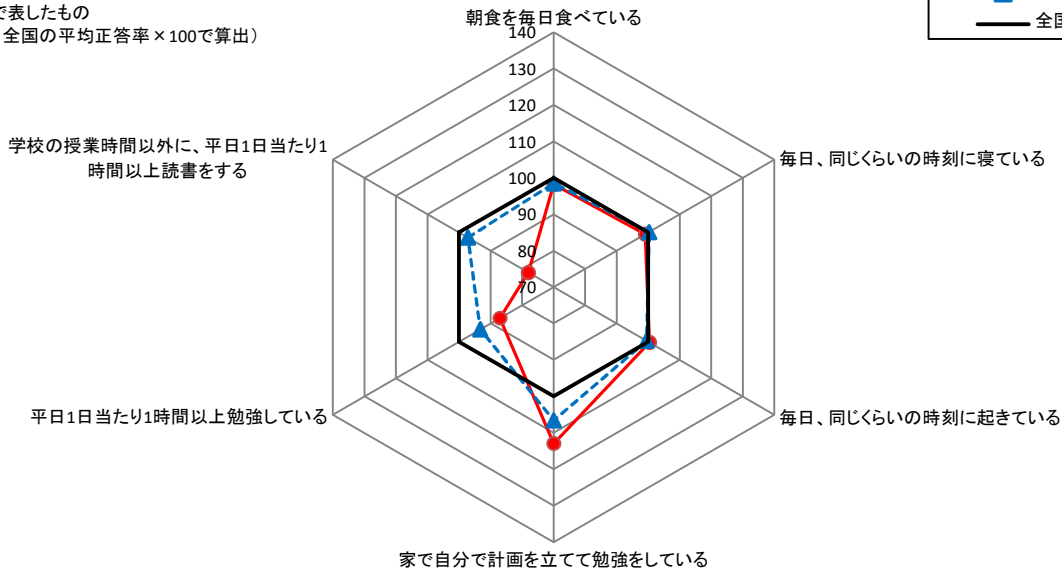
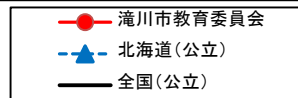
【滝川市の改善策】

○「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、全国・全道の割合を下回った。そのため、友達と認め合い、高め合える学級の支持的風土を醸成するとともに、道徳等において、児童が自分のよさや特徴に気付き、自分の長所を伸ばしていこうとする態度を育てる。
 ○挑戦心や粘り強さを高めるために、学校生活において、一人で、または友達と協働し、難しいことにチャレンジできる場を設け、成功体験を積み重ねられる取組を充実させる。

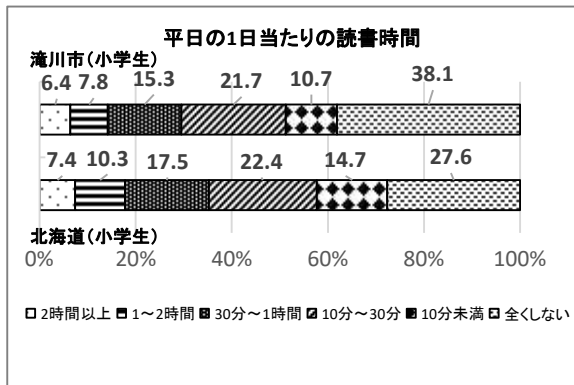
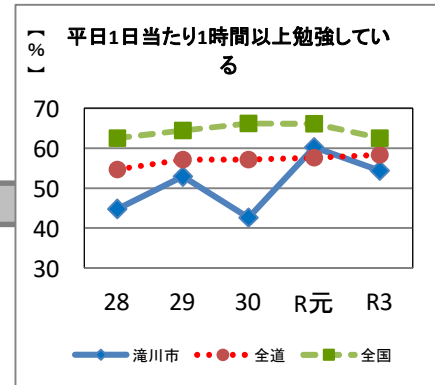
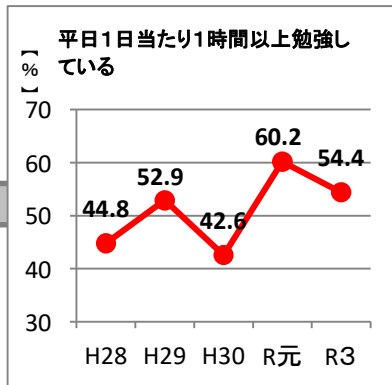
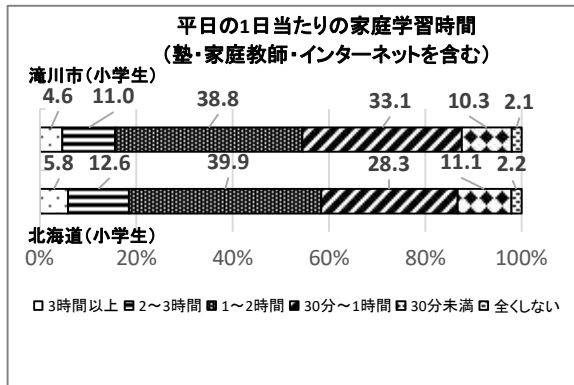
5 滝川市立小学校の学習状況及び改善策(学校数:6校、児童数:281名)

【家庭生活・学習習慣全体の状況】

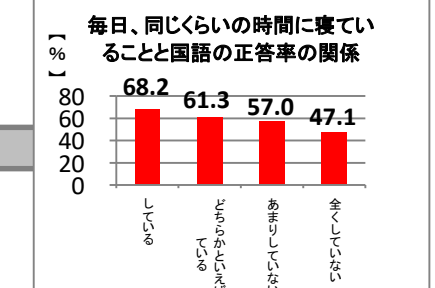
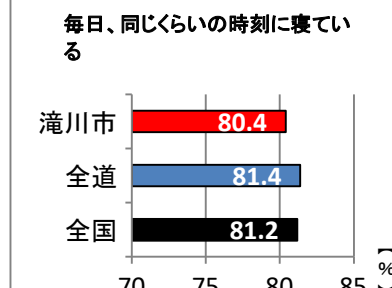
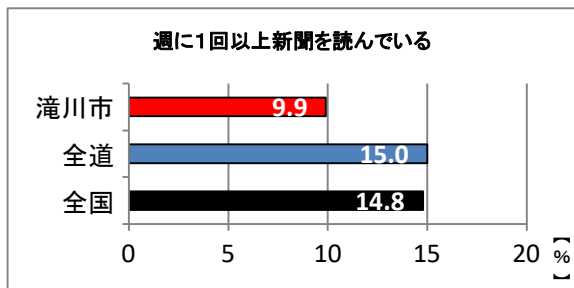
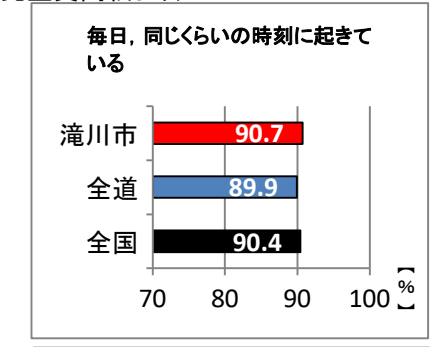
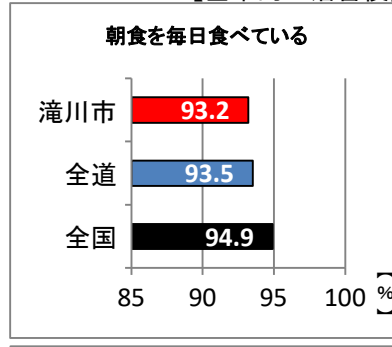
質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)



【学習時間等】(児童質問紙より)



【基本的な生活習慣】(児童質問紙より)



【分析及び改善策】

○家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合は、全国・全道の割合を上回った。一方で、平日1日当たり1時間以上勉強していると回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回った。引き続き、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、各家庭と連携して推進したりするとともに、学校では児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにする必要がある。

○学校の授業時間以外に、平日1日当たり「読書を全くしない」と回答した児童の割合は、全道の割合を上回り、全国の割合(24.0%)も上回った。読書は、言葉を学ぶだけでなく、表現力や想像力を豊かにする上で欠かせないものであることから、今後、保護者の協力を得ながら、家庭等での読書活動を習慣化する必要がある。

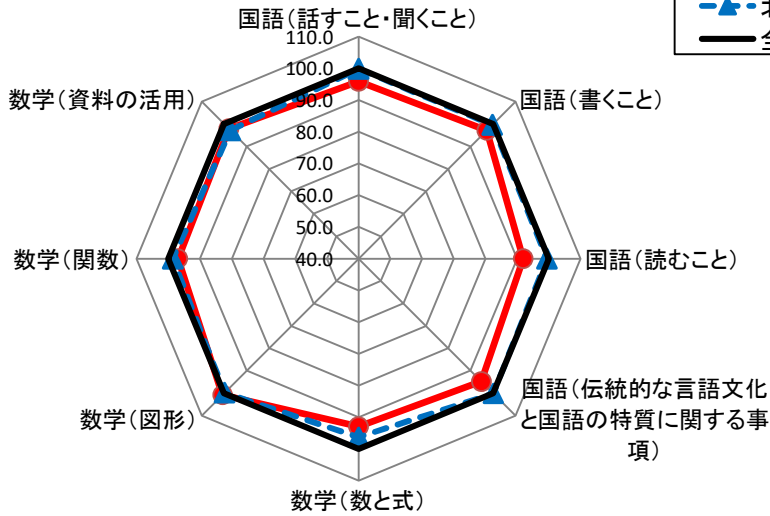
○朝食を毎日食べていると回答した児童の割合は、2年前の調査と同様に全国・全道の割合を下回った。また、毎日同じくらいの時刻に寝ていると回答した児童の割合も、全国・全道の割合を下回り、そのことと国語の平均正答率には、相関関係が見られている。そのため、望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携する必要がある。

○「週1回以上新聞を読んでいる」と回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回っている。社会に目を向けさせたり、多様な見方や考え方にに基づき、読解力・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたりするために、新聞等を活用した授業等を行うことが求められる。

6 滝川市立中学校の学力の状況及び学力向上策（学校数：4校、生徒数：301名）

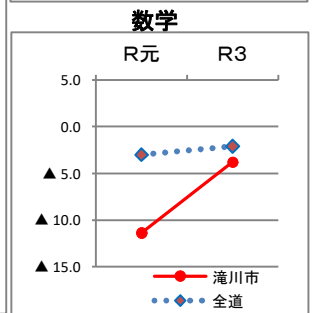
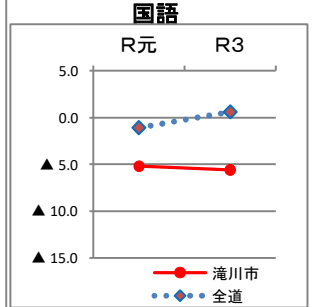
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
（滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出）



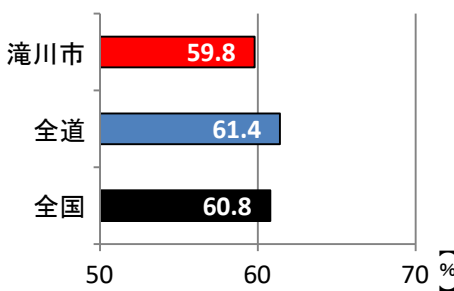
● 滝川市教育委員会
▲ 北海道(公立)
— 全国(公立)

※全国を「0」とした場合の平均正答率の差を経年変化で表したものの、令和2年度の調査は中止。

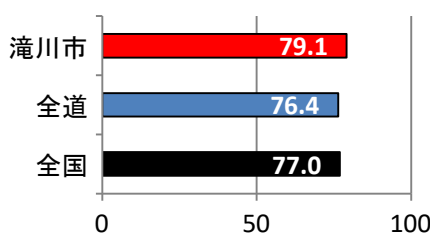


【生徒質問紙調査】

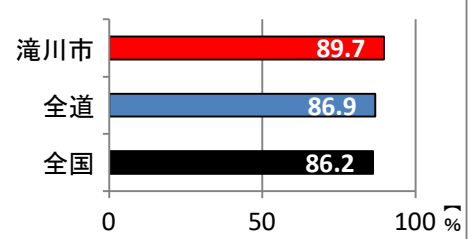
国語の勉強は好きだ



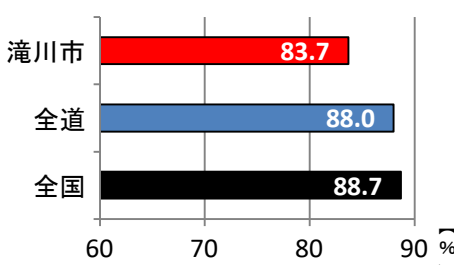
国語の授業では、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている



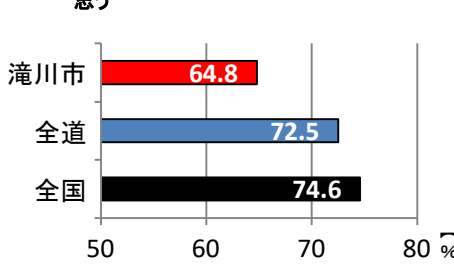
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う



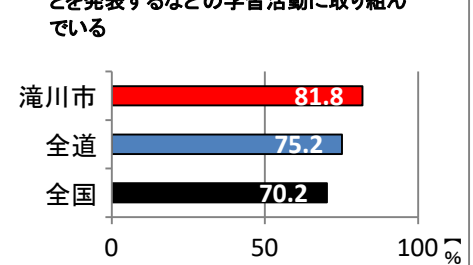
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う



数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う



総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



【分析】

教科	国語の平均正答率は、全国・全道の平均正答率をやや下回った。一方で、数学の平均正答率は、全国・全道の平均正答率と同程度となった。領域別にみると、数学の「図形」の領域は、全国・全道の平均正答率を上回り、「資料の活用」の領域は、全道の平均正答率を上回った。国語はすべての領域において、数学は「数と式」及び「関数」の領域において全国・全道の平均正答率を下回り、定着が不十分であることがわかる。	学校は、生徒の姿や地域の現状等に基づき、教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立させた。また、児童の学習状況や課題を全教職員で共有し、学力向上プランの見直しを図りながら、組織的に授業改善に取り組んできた。引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生徒が自らの学びの変容を見取り、自らの学びの高まりを自覚できるようにすることが大切である。
生徒質問紙	「国語の勉強は好きだ」と回答した割合は、全国・全道の割合より低くなっている。しかしながら、国語の授業では、自分の考えを広げたり、深めたりすること、道徳の授業では、積極的にグループ活動に参加していること、さらに総合的な学習の時間では、主体的に学習に取り組んでいることは、いずれも全国・全道の割合よりも高いことから、今後、学習への意欲が高まっているものと思われる。よって、単元や題材のまとまりの中で、自己判断や自己決定、他者や対話する場面を設定したり、振り返る活動の充実が求められる。また、国語や数学の授業において、学習の有用性を感じられる場面を意図的に設定することが大切である。	
学校質問紙	すべての学校において「前年度までに、学習規律を維持した」「前年度までに授業の中で目標を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」「生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学が校内研修を行っている」と回答した。	

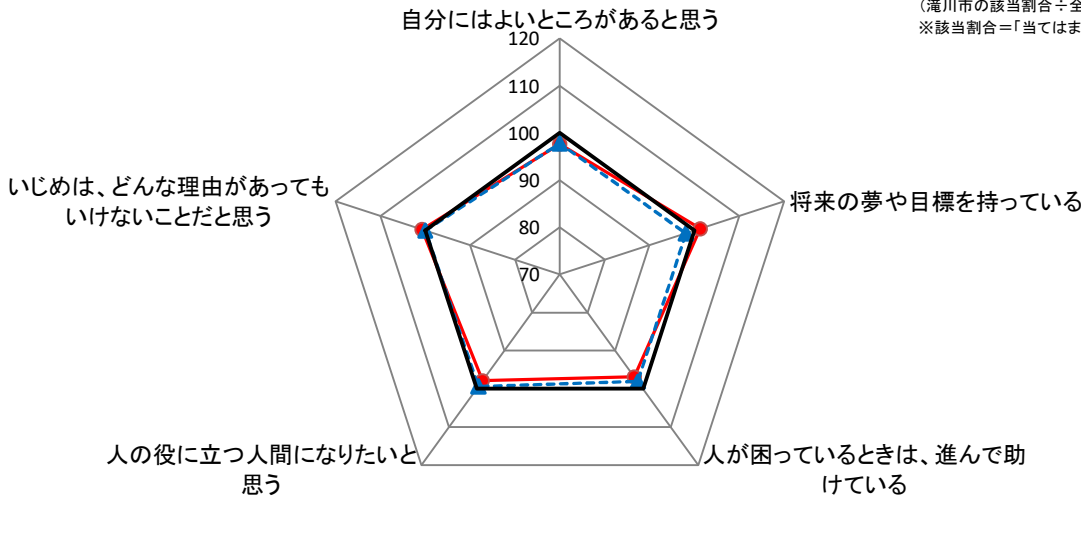
【滝川市の学力向上策】

- 個に応じた学びの支援のため、退職教員等外部人材活用事業や「学びサポーター」の活用など少人数指導体制を積極的に推進している。
- 学力の二極化を解消するため、チーム・ティーチング指導や習熟度別指導を取り入れ、知識や技能を活用する力を育成している。
- 各学校において家庭学習の手引を作成・活用し、望ましい家庭学習の定着に向けた取組を各家庭と連携して推進している。
※校区内の小学校と連携して作成した手引を用いている学校もある。
- 放課後や長期休業中の学習機会を拡充し、補充的・発展的な学習への取組を推進している。
- 小学校における授業改善推進チーム活用事業の取組を参考にした積極的な授業改善を推進している。

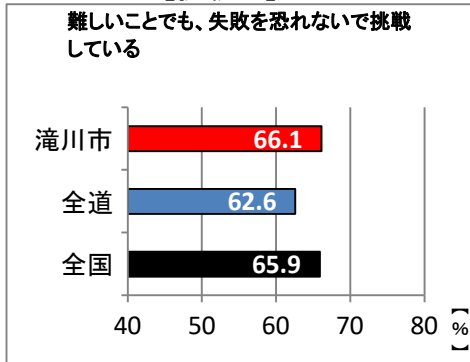
7 滝川市立中学校の学習状況及び改善策(学校数:4校、生徒数:301名)

【自尊感情及び規範意識等全体の状況】

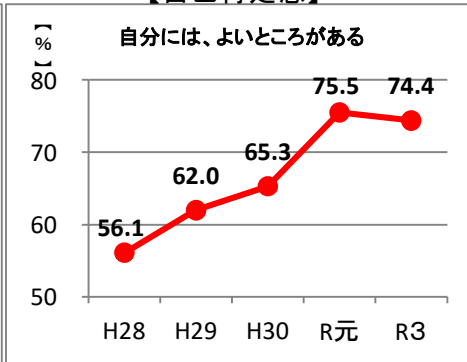
各生徒質問紙項目別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
(滝川市の該当割合÷全国の該当割合×100で算出)
※該当割合=「当てはまる」割合+「どちらかといえば当てはまる」割合



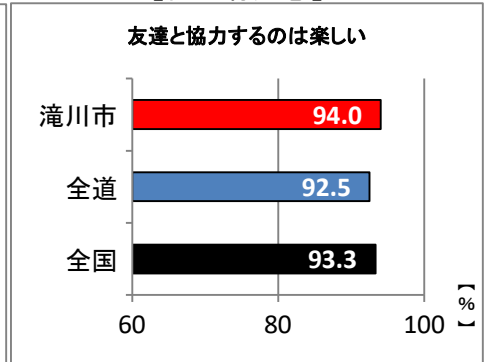
【挑戦心】



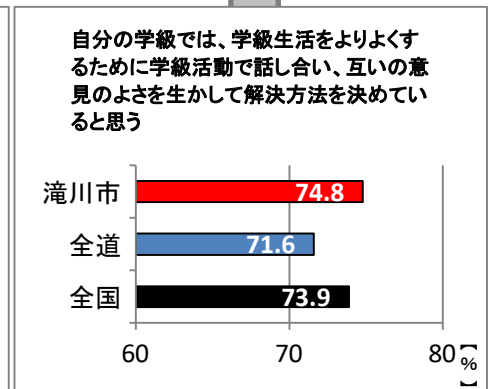
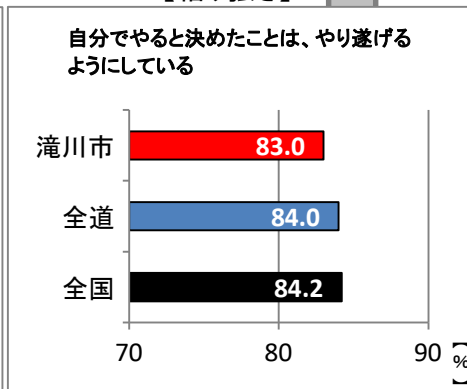
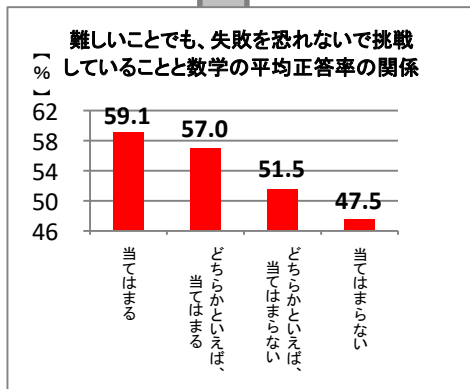
【自己肯定感】



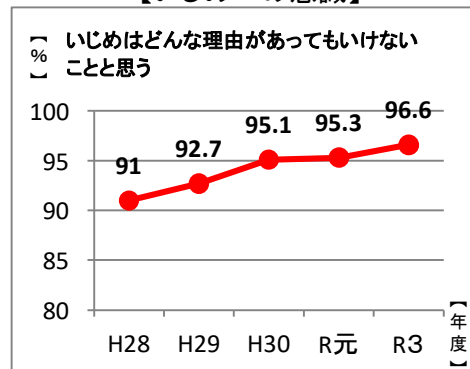
【自己有用感】



【粘り強さ】



【いじめへの意識】



【分析】

○「将来の夢や目標を持っている」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、特別活動を要としたキャリア教育の充実がその要因の一つと考えられる。今後も、小中9年間を見越したキャリア教育の推進が望まれる。
○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、ここ数年でもっとも高い割合となっている。滝川市は、その割合が100%となるよう目標を掲げて施策を推進している中で、各学校において生徒・家庭への啓発活動及び生徒による主体的な活動が行われていることが要因と考える。
○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を上回った。教育活動全体を通して失敗しても励まし合える人間関係の醸成に努めた結果と考える。なお、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していることと算数の平均正答率には、相関関係が見られている。
○「友達と協力するのは楽しい」と回答した割合は、全国・全道平均を上回っており、学級会等において、友達の意見を尊重し、解決方法を決めていたことがその要因と考える。

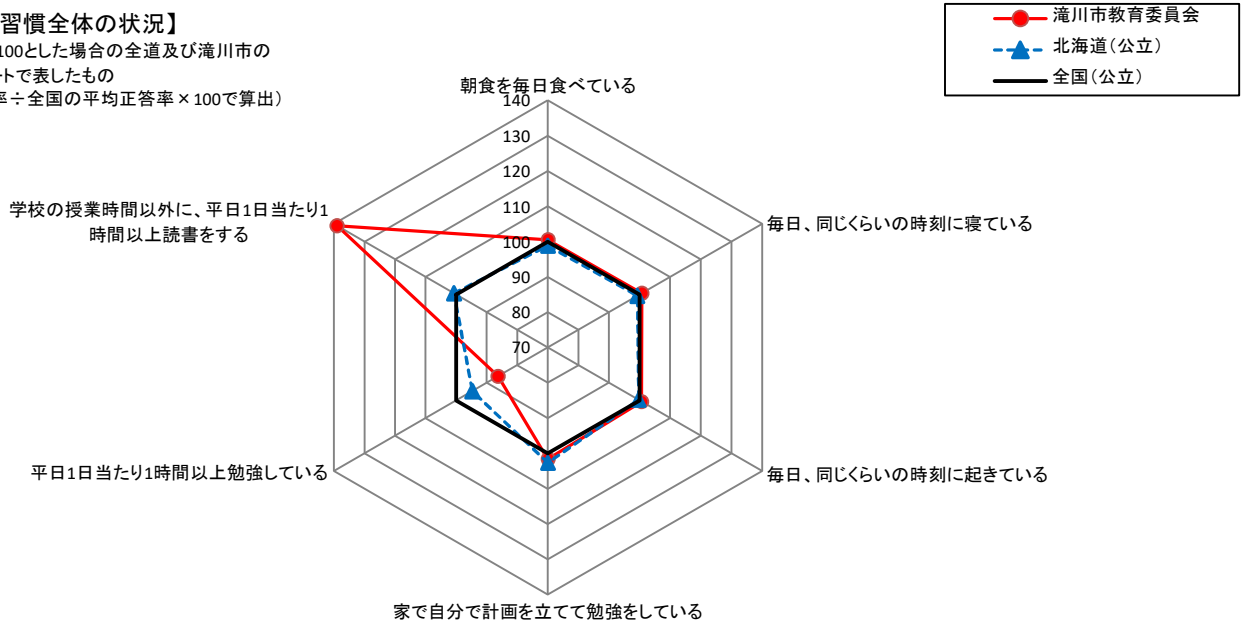
【滝川市の改善策】

○「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、全国・全道の割合を下回った。そのため、道徳等において、友達と互いに認め合う関係づくりの取組や自己の変容を実感できる学びの積み重ねの振り返りを工夫しながら自己肯定感を育てていく。
○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した割合は、全国・全道の割合を下回った。そのため、生徒の学習状況を確認し、学習意欲が持続できるように声かけをしたり、時には「できない」「無理かもしれない」と感じるような場面を意図的に設定し、そのネガティブな気持ちを乗り越えさせたりしながら、達成感や充足感を味わわせていく。

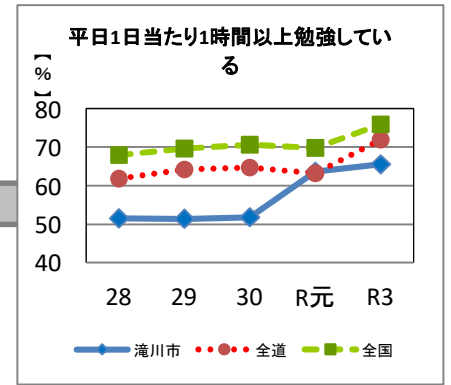
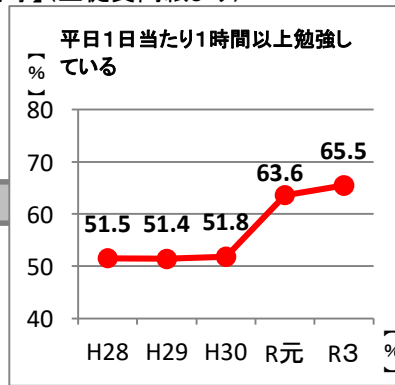
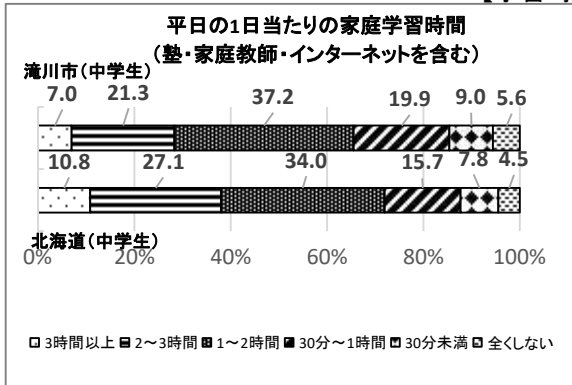
8 滝川市立中学校の学習状況及び改善策（学校数：4校、生徒数：301名）

【家庭生活・学習習慣全体の状況】

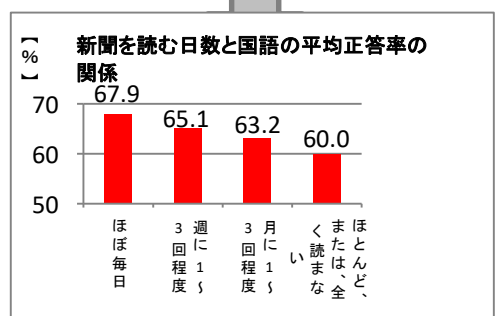
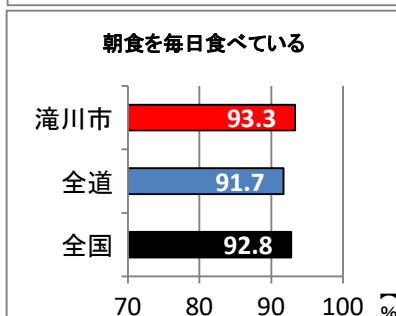
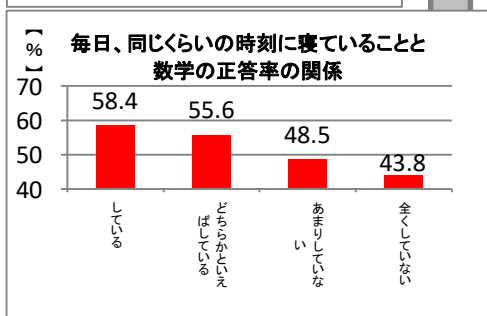
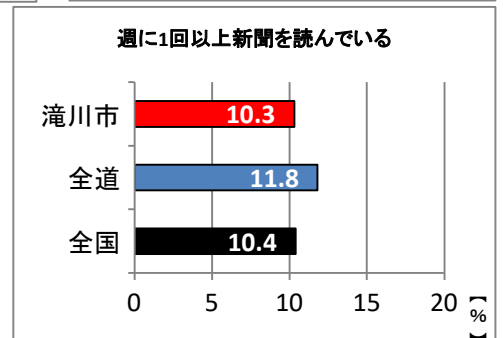
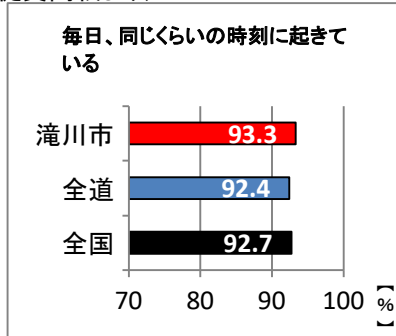
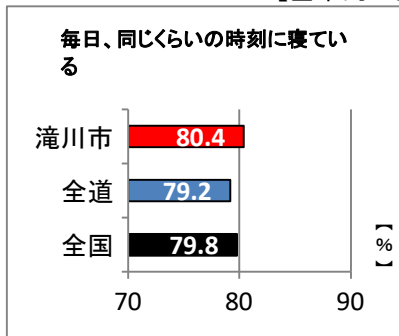
質問事項別に全国を100とした場合の全道及び滝川市の状況をレーダーチャートで表したもの
 (滝川市の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)



【学習時間等】(生徒質問紙より)



【基本的生活習慣】(生徒質問紙より)



【分析及び改善策】

○学校の授業時間以外に、平日1日当たり1時間以上読書をする」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を大きく上回った。この状況は、前回調査時(令和元年度)と同様である。計画的な読書活動が行えるよう、生徒への適切な読書指導及び家庭への働きかけがあったためと考える。

○平日1日当たり1時間以上勉強していると回答した児童の割合は、全国・全道の割合を下回っているものの、その割合はここ数年で最も高い。これまで、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、家庭学習の取組として、学校では生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたりした成果と考える。

○朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時刻に寝ている、毎日同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒の割合は、いずれも全国・全道の割合を上回った。望ましい生活習慣の確立に向けて、家庭と学校が連携し、推進してきた成果であると考えられる。なお、毎日、同じくらいの時刻に起きていることと数学の平均正答率には、相関関係が見られており、令和元年度から本年度にかけての数学の伸びの要因の一つと考えられる。

○「週1回以上新聞を読んでいる」と回答した生徒の割合は、全国・全道の割合を下回っている。社会に目を向けさせたり、多様な見方や考えに基づき、読解力・思考力・判断力・表現力等を身に付けさせたりするために、新聞等を活用した授業等を行うことが求められる。